

製品名: MCM6 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13725**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	90kDa

抗原情報

遺伝子名	MCM6
別名	MCM6; DNA replication licensing factor MCM6; p105MCM
遺伝子 ID	4175.0
SwissProt ID	Q14566
免疫原	抗血清はヒト MCM6 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 331-380

背景

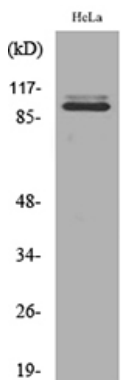
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、真核生物のゲノム複製の開始に不可欠な、高度に保存されたミニ染色体維持タンパ

ク質 (MCM) の1つです。MCM タンパク質によって形成される6量体タンパク質複合体は、複製前複合体 (pre_RC) の重要な構成要素であり、複製フォークの形成や他の DNA 複製関連タンパク質のリクルートに関与している可能性があります。このタンパク質と MCM2、4、および7タンパク質からなる MCM 複合体は DNA ヘリカーゼ活性を持ち、DNA 巻き戻し酵素として作用する可能性があります。CDC2 キナーゼによる複合体のリン酸化はヘリカーゼ活性を低下させることから、DNA 複製の調節における役割が示唆されます。この遺伝子のイントロン領域における一塩基多型は、隣接するラクターゼ遺伝子のプロモーターの異なる転写活性化と関連しており、それによって、S 期中の1ラウンドの DNA 複製の制御に関与している可能性があります。G1 期にクロマチンに結合し、S 期にクロマチンから分離する。これは、あたかもクロマチンの複製を許可するかのように働く。、多型: LCT 遺伝子上流の MCM6 におけるイントロン変異は、成人型低乳糖症[MIM:223100]と関連しており、乳糖不耐症、またはラクターゼ活性の持続と関連している。乳糖不耐症は、小児期または成人初期におけるラクターゼ活性の発達のダウンレギュレーションによって引き起こされる正常な生理現象である。MCM6 の非コード変異は、LCT 遺伝子の転写制御に影響を与え、ラクターゼ活性のダウンレギュレーションを引き起こす。しかし、北欧人の大多数と一部のアフリカ人は、生涯を通じてラクターゼ活性を維持し、乳糖を消化する能力 (ラクターゼ持続性) を持っています。、PTM: DNA 損傷時にリン酸化されます (おそらく ATM または ATR による)。、類似性: MCM ファミリーに属します。、類似性: 1つの MCM ドメインを含みます。、サブユニット: MCM10 と相互作用する可能性があります。TIPIN と相互作用します。、

研究分野

DNA 複製;細胞周期 G1S;細胞周期 G2M_DNA;

画像データ



MCM6 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解液のウェスタン プロット分析。



MCM6 ポリクローナル抗体を使用した HeLa 細胞のウェスタン プロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈されました。

